



もの いろ 物になぜ色がついているの

ひかり かんけい 光 に関係している

わたしたちの身のまわりにあるものを、光のない暗い所で見ると、自分から光を出している物は別として、色がわからなくなります。このことから、物の色が見えるのは、光が関係していることがわかります。

また、同じ色を見るときでも、日光で見たときと、けい光灯で見たときとは、ちがう色に見えることがあります。

いろ ひかり はんしゃ その色の光だけを反射している

日光は、いろいろな色が混じりあった光です。日光をプリズムに通すと、赤、だいたい青など7色に分かれることからわかります。また、けい光灯の光も、いろいろな色の光が混じりあったものです。

赤い色がついている物は、その物が赤い色の光だけを反射し、ほかの色の光を吸収してしまうからです。物によってついている色がちがうのは、その物によって、それぞれ反射する光の色がちがうからです。（監修・小川 格）

